

第19回 贈呈式

平成28年11月18日(金)開催

七十七ビジネス大賞・七十七ニュービジネス助成金



代表理事あいさつ

本日は、ご多用にもかかわらず、皆様のご臨席を頂きまして、ここに第19回「七十七ビジネス大賞および七十七ニュービジネス助成金」贈呈式を開催できますことは誠に有り難く、皆様のご支援、ご協力に対しまして厚く御礼を申し上げます。

とくにお忙しいなか、ご臨席を賜りましたご来賓の、東北財務局長 中田 悟様、東北経済産業局地域経済部長 岩瀬 恵一様、宮城県経済商工観光部長 吉田 祐幸様、仙台市副市長 伊藤 敬幹様、日本銀行仙台支店長 竹澤 秀樹様には深く御礼申し上げます。

また、この度「ビジネス大賞」および「ニュービジネス助成金」受賞の栄に浴されました企業の皆様に対し、心からお慶びを申し上げます。

当財団は七十七銀行の創業120周年を機に平成10年4月に設立され、今年で19年目になります。この間、産・学・官各方面からの厚いご支援・ご協力のもと、表彰事業のほか、講演会やセミナーの開催、情報誌の発行など、幅広い事業活動を続けて参りました。

さて、最近の経済情勢ですが、6月のイギリスのEU離脱決定による金融市場の混乱も落ち着きを見せていましたが、それを上回るこのたびの米国大統領選の衝撃により、あらゆる面で不透明感が増しているようです。新大統領がかかげる米国の成長戦略

は長期的には日本に恩恵となる見込みもございますが、政府が成長戦略の柱と位置付けるTPPの白紙化等多くの懸念材料もあり、新政権の実像が見えるまで冷静に情勢を注視していく必要があると思います。

県内の経済情勢につきましては、復興需要や雇用・所得の改善に支えられ、総じて高水準で推移していますが、衣料品や高額雑貨などの消費財は勢いを欠くなど個人消費に一部弱さが見られ、また震災から5年半を経過し復興需要は緩やかな減少局面を迎えております。このような中、ポスト復興を見据え、地域の経済を担う新しい産業の創出など産業構造の改善を着実に図る必要があると思います。

当財団といたしましても、県内産業の振興と地域経済の活性化、震災からの復興に向け少しでもお役に立てるよう、今後ともこれまでの実績を踏まえ表彰事業・起業支援などを中心に様々な形で、ニュービジネスや起業家を積極的に支援して参りたいと考えております。

本日贈呈いたします「七十七ビジネス大賞」は、永年にわたり県内の産業・経済の発展に寄与し、あるいは活性化に貢献している企業等に対し表彰状と奨励金を贈呈するものであります。

また、「ニュービジネス助成金」は、新規性・独創性のある技術・ノウハウ等により積極的な事業展開を行っている企業や、新規事業を志している起業家に表彰状と助成金を贈呈するものであります。

これまでにそれぞれ約60先に贈呈させていただきましたが、今後も実績ある企業へ「七十七ビジネス大賞」表彰を継続するとともに、よりニュービジネス・ベンチャー支援を強化する目的で、今回から「ニュービジネス助成金」の贈呈先数を増やすこと



第19回「七十七ビジネス大賞」「七十七ニュービジネス助成金」贈呈式

公益財団法人 七十七ビジネス振興財団



「七十七ビジネス大賞」(五十音順)

株式会社白石倉庫

代表取締役社長

太宰 榮一 氏

株式会社タカカツホールディングス

代表取締役

高橋 勝行 氏

「七十七ニュービジネス助成金」(五十音順)

エーアイシルク株式会社

代表取締役

岡野 秀生 氏

株式会社 J D S o u n d

代表取締役

宮崎晃一郎 氏

株式会社セッショナブル

代表取締役

梶屋 陽介 氏

株式会社デザインココ

代表取締役

千賀 淳哉 氏

株式会社ミヤギタノイ

代表取締役社長

田野井優美 氏

としました。今回の応募企業の皆様にもその趣旨がご理解いただけたと思っております。

審査結果につきましては、後ほど審査委員長である大滝先生からご報告がございますが、各支援機関や公共団体のご協力なども頂き、今回も数多くの幅広い分野からの応募がありました。内容的にも優れたものが多かったとお聞きしております。

そのような応募のなかから選ばれ、今回受賞されます企業の皆様方は、地域や業界をリードしていく企業であり、また意欲的に将来性のある新商品を研究・開発されている企業や、地方創生・再生を目指す新しいビジネスモデルを展開されている企業であります。いずれも他の地元企業にとりまして模範となり、共に成長していくことを期待したいと思います。

是非、今回の受賞を契機に今後ますますご発展さ

れることを心よりお祈り申し上げるとともに、地元経済・社会に一層貢献されることを切に願う次第でございます。

最後になりますが、審査にあたられました大滝審査委員長をはじめ、審査委員の皆様方には、ご多忙の中ご尽力頂きましたことに対し、改めて厚く御礼申し上げます、私の挨拶といたします。



審査結果の講評



今回の審査をふりかえって

公益財団法人七十七ビジネス振興財団

審査委員長 大 滝 精 一

(東北大学大学院経済学研究科教授)

機械・メカトロ、エレクトロニクス、IT、医療・福祉等様々な分野から応募がございました。地域的には、インキュベーション施設のある仙台圏からの応募が5割以上を占めていますが、徐々に他地域も増加しております。

「ビジネス大賞」と「ニュービジネス助成金」は、その趣旨が異なりますので、それぞれ別々に選考しております。

「ビジネス大賞」につきましては、評価の高い商品やサービス、優れた経営手法等により、業界・地域のリーダーとして県内の産業・経済の発展に貢献してきた実績などを総合的に評価いたしました。

「ニュービジネス助成金」につきましては、製品や技術力の「新規性・独創性」と、将来の見通しを含めての「事業性」の両面から検討、総合的に評価いたしました。

なお、復興への貢献等も評価の対象に加えております。

審査経過ですが、8月末に締め切りました応募資料にもとづき、各審査委員がそれぞれ書類審査を実施しました。

審査委員長を務めました大滝でございます。2つの賞の趣旨につきましては、ただいま鎌田代表理事からお話がございましたので、さっそく今回の審査結果についてご報告させていただきます。

まず、応募状況につきましては、今年度は「ビジネス大賞」に10件、「ニュービジネス助成金」に36件、併せて46件の応募をいただきました。特に「ニュービジネス助成金」については、今年度より贈呈先数を増やしたこともあり、昨年を上回る応募となりました。

応募の内容をみますと、今年度の「ビジネス大賞」は、従来の応募企業の業種には分類しにくい幅広い分野から応募となり、結果「その他」分野が多くなりました。細分化されたものですが全体の半分をものづくり企業が占めています。

「ニュービジネス助成金」につきましては、食品、



「ビジネス大賞」につきましては、審査委員会で総合的に検討した結果、今回は2社を選定いたしました。

また、「ニュービジネス助成金」につきましては、二次審査として上位企業によるプレゼンテーションと質疑応答を行い、最終的に5社を選定いたしました。

（「七十七ビジネス大賞」「七十七ニュービジネス助成金」贈呈先の企業概要・受賞理由等は6ページ以降をご覧ください）

以上、受賞企業を簡潔にご紹介して参りましたが、「ビジネス大賞」の2社は、これまで長きにわたり時代のニーズに的確に対応し、地域経済の発展に大きく貢献されておられますが、今後なお一層事業を発展され、地域経済を力強く牽引していただきたいと思っております。

一方、「ニュービジネス助成金」を受賞された5社は、いずれも新規性・独創性に優れたものづくり企業であります。これからも社会の多様なニーズ、技術革新に対応し、新規事業・新しいビジネスモデルを成功させ大きく成長していただきたいと思っております。

また皆様には、これから新たに創業を計画している起業家や、既にニュービジネスに取り組んでいる方々への理解者としても幅広くご活躍いただきたい



と思っております。協力・連携しながら相乗効果を発揮することで、地域経済全体の活性化が図られていくものと考えております。

最後になりましたが、大変お忙しいなか、ご審査いただきました審査委員の皆さまに、この場を借りまして御礼を申し上げ、講評とさせていただきます。

